脳卒中失語症患者への看護に関する和文献の検討

○ 山下裕紀 （関西医科大学看護学部・看護学研究科）

I. はじめに

脳卒中は日本人の死因の 4 番目であり、その後遺症に苦しんでいる人も多い。中でも脳卒中に失語症を伴った患者は言葉というコミュニケーション手段を奪われ、幾重もの苦悩を伴う。脳卒中失語症患者に焦点を当てた看護はどのようなものか、日本における研究の動向と内容を明らかにし、今後必要な課題について検討することとした。

II. 研究方法

1．文献抽出方法

医学中央雑誌 Web 版で「脳卒中」「看護」「失語症」のキーワードを用いて、2022 年 9 月までに収録された和文献を検索した。①看護文献である、②原著論文である、③データベースに本文がある、これら 3 つの基準を全て満たす文献を選定した。

2．分析方法

選定された文献を精読し、題目、キーワード、発表年、目的、方法、参加者、結果(看護実践に関する内容)、脳卒中失語症者への同意取得方法を抽出し、分析した。

3．倫理的配慮

文献検討に際し、著作権を保護するため、出典を明示し、盗用や剽窃とならないように配慮した。

III. 結果

医学中央雑誌 Web 版で「脳卒中」「看護」「失語症」のキーワードで AND 検索した結果 286 件、選定条件①②を満たす文献は 73 件、①～③全てを満たす文献は 19 件であった。対象文献 19 件のうち、文献レビュー2 件、失語症患者を除外しているもの 3 件、理学療法や治療法などを主に紹介しているもの 6 件が含まれた。脳卒中失語症患者への看護に関する文献は 8 件であり、うち 1 件は診療・看護記録の追跡調査、他 7 件はケースレポートで詳細な看護実践が紹介されていた。2010 年以降の 5 件において脳卒中失語症患者への同意取得は 1 件のみ「家族とともに同意を得た」と記載があり、他は記載がなかった。

IV. 結論

脳卒中失語症患者への看護に関する和文献において、事例紹介がほとんどであった。同意取得方法が記載されているものは少なく、今後、倫理的な配慮とともに報告される必要がある。また、今回のキーワード検索は限局的であったとも考えられ、今後は「脳卒中」「看護」のキーワードのみで検索された文献から脳卒中失語症患者への看護に関する内容を抽出するなど、方法を検討する必要がある。